

都市再生整備計画

くろさわじり
黒沢尻地区

いわて きたかみ し
岩手県 北上市

当 初 令和5年3月
第1回変更 令和6年2月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	岩手県	市町村名	きたかみ 北上市	地区名	くろさわじり 黒沢尻地区	面積	195.5	ha
計画期間	令和5年度～令和7年度	交付期間	令和5年度～令和7年度					

※青字は記載例です。
また、下線部は官民連携まちづくりに関する事項を明示した箇所です。
作成にあたっての参考にしてください。

目標
大目標: 中心市街地の持続可能な形への再構築による「あじさい都市」きたかみの賑わいの創出 目標1: 歩行空間の高質化による回遊性機能の強化 目標2: 公共施設の整備による新たな活用用途・利便性の向上 目標3: 徒歩圏内の魅力的な店舗の増加による、快適な都市空間の整備
目標設定の根拠
都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の考え方を含み、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。 北上市では、人口減少・高齢化が進む中、将来にわたり持続可能なまちとしてあり続けるために、都市機能を集約立地させ、人口密度を維持し生活サービスやコミュニティが持続的に確保される「都市拠点」の形成を目指している。 しかしながら、市内中心部では、老朽化した建物や空き店舗等が多く目立ち、店主の高齢化等により計画的な修繕や流動的な資産活用が図られていない状況にある。特に、商店街ではそれらに加え歩道タイルの劣化やアーケードの老朽化も顕著である。そのため、歩行空間も含めた一体的な更新が課題となっている。加えて、それらの商店街は令和4年に作成した「北上市産業ビジョン」において、商業機能としての拡大は企図せず、中心市街地として必要な都市機能を果たす役割として再構築する必要があると位置づけていることから、安心・安全な回遊性機能の強化は喫緊の課題である。 また、市内には中心市街地でありながら低未利用となっている公共空地も存在している。近年大型企業の進出等で駅周辺の開発がなされオフィスビルやマンション等の建設が進められてきたが、かつてより存在している広場については目立った利用はされていない。そのため、今後、広場を活用した企業等のイベントが想定されることから、車両の乗り入れ等、賑わいが生まれる空間としての整備が必要である。市営駐車場についても雨や雪の吹き込み等によりスリップ等が発生していることから施設の高質化が望まれている。
まちづくりの経緯及び現況
北上市は、平成3年4月1日に旧北上市、和賀町、江釣子村の3市町村の合併により誕生した。岩手県のほぼ中央、北上盆地の中ほどに位置し、市域の中央部には平野が広がり、東部は北上高地の丘陵地、西部は奥羽山脈の山々が連なっている。また、北上川と和賀川が合流して田園地帯を形成する自然の豊かな水と緑のあふれるまちである。産業面では、古くから南北交易と南北交易の交差する十字路で、物資や情報の交流拠点として栄えてきた。1970年代後半からは、東北新幹線、東北縦貫自動車道、東北横断自動車道釜石秋田線等の高速交通体系の整備が進み、北東北の十字路である交通結節点としての強みを活かしながら企業誘致に取り組み、岩手県の内陸工業都市として発展してきた。 当地区においては、平成30年～令和2年にかけて、「都市再生整備計画(黒沢尻地区)」を策定し、医療・福祉・子育てを支え、ふれあいや交流が生まれる「あじさい都市」きたかみの都市拠点の形成を目的とし、北上済生会病院や保健・子育て支援複合施設を整備し、それらを繋ぐ公共交通ネットワークを整備してきた。
課題
・中心市街地を構成する商店街の歩道タイルの劣化およびアーケードの老朽化が深刻であり、安全かつ快適な歩行空間の整備が求められている。 ・低未利用地の利便性の向上やにぎわい機能の充実が求められている。
将来ビジョン(中長期)
【総合計画】 『“うきうき”“わくわく”するまち北上』を将来都市像とし、市民参画型の行政運営により施策の推進を図ることとしている。 ・高齢化や過疎化の進行、やがて迎える人口減少社会を念頭に、都市機能の集約と地域連携による持続可能な都市「あじさい都市」きたかみを目指して、社会インフラの強化を推進する。 ・将来的な人口減少時代にあっても持続的に発展し、将来世代が安心して暮らすことができるよう、都市拠点及び地域拠点の形成に取り組み、都市と地域を結ぶより利便性の高い公共交通体系の充実を図る。 【都市計画マスタープラン(立地適正化計画)】 都市機能の集約と地域連携による持続可能な都市『あじさい都市』を目指すべき都市像として提唱し、実現に向けた都市計画制度の見直し等を進める。 ・医療・福祉・子育て機能の集積及び強化 ・北上市全体を支える都市拠点の形成 ・拠点間を結ぶ公共交通体系の構築

都市構造再編集集中支援事業の計画 ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。							
都市機能配置の考え方 【立地適正化計画】 黒沢尻地区は、古くから行政・商業・金融・医療等さまざまな機能が集積していたエリアであり、また、都市計画マスタープランの土地利用方針においても当エリアを「街なか地区」と位置づけ、都市の核として活力や賑わいを創出し、北上市市内外から多様な人が集う地区として促進するべきものとしている。							
都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等 なし							

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
				基準年度		目標年度	
歩行者・自転車交通量	人	本通り二丁目、新穀町一丁目の歩行者・自転車交通量	歩行空間の高質化による回遊性機能の強化	1,506人/半日		1,600人/半日	
商店街の空き店舗数	数	本通り一丁目、諏訪町、新穀町、北上駅前商店街振興組合の空き店舗数	徒歩圏内の魅力的な店舗の増加による、快適な都市空間の整備	45件		36件	
低未利用地の利用件数	数	北上駅東口広場	公共施設の整備による新たな活用用途・利便性の向上	0件		3件	

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
【歩行空間の高質化による回遊性機能の強化】 ・安心・安全かつ快適な歩行空間の整備(歩道タイルの防滑化舗装等) ・市内主要施設への案内誘導公共サイン整備		【基幹事業】(高質空間形成施設 緑化施設等)本通り一丁目・新穀町歩行空間整備 【基幹事業】(地域生活基盤施設 情報板)施設誘導公共サイン整備
【公共施設の整備による新たな用途・利便性の向上】 ・車両の乗り入れを可能とするインターロッキング整備 ・モニュメント移設、植栽木の撤去 ・歩廊(アーケード)の新設 ・引き込み中の移設、電線地中埋設化 ・本通り市営駐車場防滑工事		【基幹事業】(地域生活基盤施設 広場)北上駅東口広場整備 【基幹事業】(地域生活基盤施設 広場)本通り駐車場整備
【徒歩圏内の魅力的な店舗の増加による、快適な都市空間の整備】 ・安心・安全かつ快適な歩行空間の整備(歩道タイルの防滑化舗装等)(再稿) ・市内主要施設への案内誘導公共サイン整備(再稿)		【基幹事業】(高質空間形成施設 緑化施設等)本通り一丁目・新穀町歩行空間整備(再稿) 【基幹事業】(地域生活基盤施設 情報板)施設誘導公共サイン整備(再稿)
その他		

様式(1)-④-1

「都市構造再編集集中支援事業」を活用の場合、本様式を使用すること

(金額の単位は百万円)

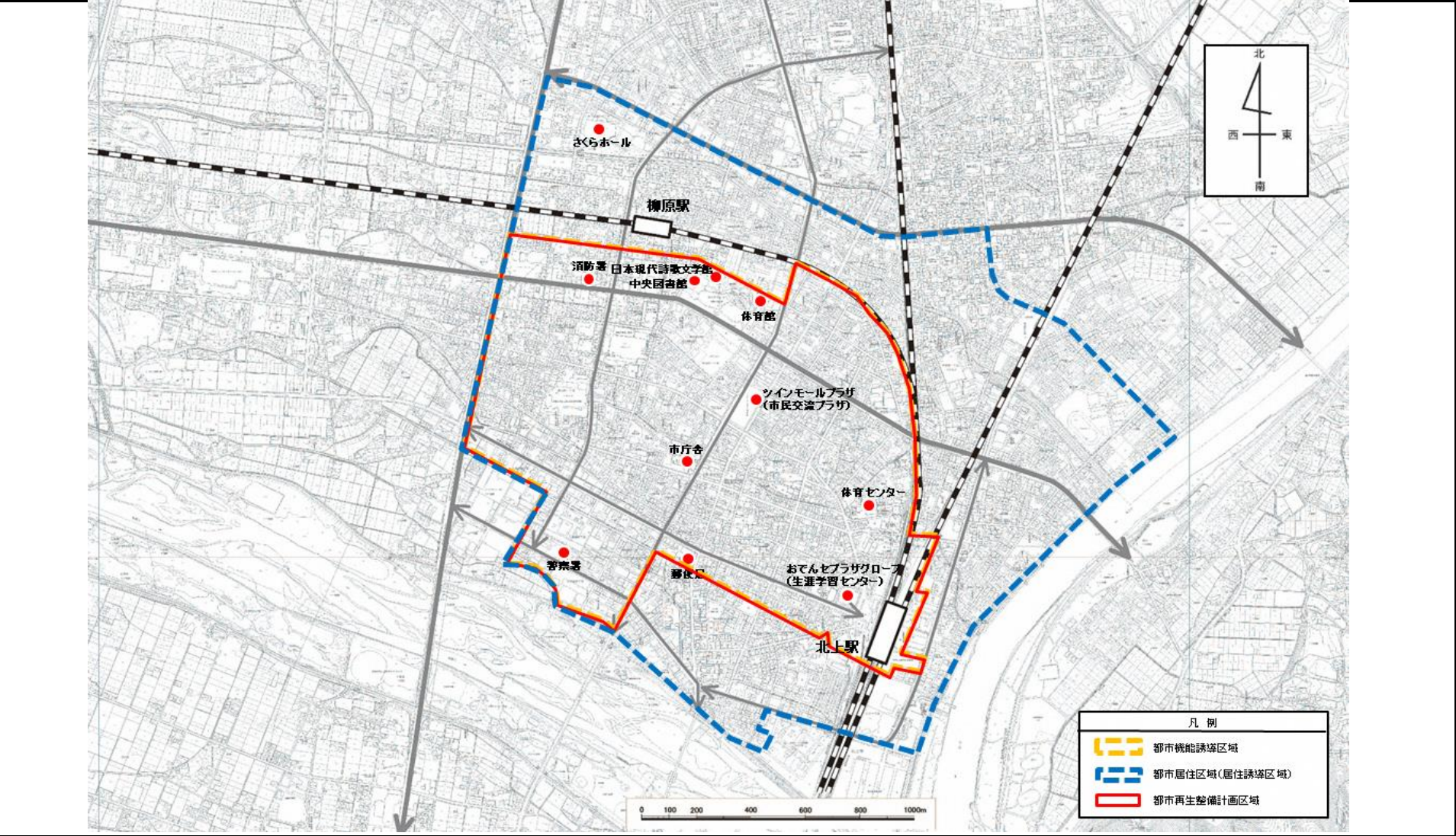
...A

[illegible]

【参考】都市構造再編集中支援事業関連事業

[illegible]

黒沢尻地区(岩手県北上市)	面積	195.5 ha	区域	岩手県北上市新穀町、諏訪町、青柳町、大曲町、大通り、芳町および花園町、九年橋、若宮町、川岸、本通り、鍛冶町、本石町、柳原町、有田町の一部
---------------	----	----------	----	--



黒沢尻地区(岩手県北上市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

変更後

目標	大目標:中心市街地の持続可能な形への再構築による「あじさい都市」きたかみの賑わいの創出 目標1:歩行空間の高質化による回遊性機能の強化 目標2:公共施設の整備による新たな活用用途・利便性の向上 目標3:徒歩圏内の魅力的な店舗の増加による、快適な都市空間の整備	代表的な指標	歩行者・自転車交通量 (人)	1,506人/半日 (4)	→	1,600人/半日 (8)
			商店街の空き店舗数 (数)	45件 (4)	→	36件 (8)
			低未利用地の利用件数 (数)	0件 (4)	→	3件 (8)
			0 ()	0 ()	→	0 ()
			0 ()	0 ()	→	0 ()
			0 ()	0 ()	→	0 ()

